

【今更聞けない、、、細胞内因子の測定とは????】

今回は OMIP という抗体パネルを紹介している文献についてご紹介しました。

OMIP には、表面抗原染色だけでなく、サイトカインや核内因子など、細胞内因子の測定例なども掲載されています。フローサイトメトリー実験でのサイトカインの測定は、かなり昔から報告例があるため、簡単な実験だと思われるがちですが、実際に行くと、サンプル調製に時間がかかってしまう、陽性コントロールなのに陽性細胞がないなど、トラブルが起きやすい実験の一つです。

また、Foxp3 の登場により一気に浸透した、核内因子のフローサイトメトリーでの測定も初心者にはハードルの高い実験方法の一つです。

さらに最近では、リン酸化タンパク質もフローサイトメトリー実験で測定されるようになってきており、各社新しいリン酸化タンパク質用抗体の開発を進めているようです。

これらの実験の一番の肝は、適切なバッファーと試薬を使うことです。

現在では、フローサイトメトリー実験用抗体を販売しているメーカーをはじめ、各社が適切なバッファーを販売しています。各社がより最適なバッファーを求めて日夜研究していますので、基本的には最新のバッファーの方がより簡便に適切にお使いいただくことができます。

また、特にサイトカインと核内因子では、分子の存在場所が異なるため、適した試薬も異なります。

測定したい因子に合わせた適切な試薬を選択して、よりきれいなデータを作成していただければと思います。

最新フローサイトメトリー実験用バッファー情報

http://www.digital-biology.co.jp/allianded/products/biolegend/docs/A4_07-0126-02i_BufferSolution_web.pdf

測定したいサイトカインによって、適切な刺激時間は異なります。下記をご参照ください。

<https://www.biolegend.com/en-us/intracellular-staining-stimulation-guide>

■過去の記事はこちらからどうぞ

[第1回：今更聞けない、、、CD 抗原とは????](#)

[第2回：今更聞けない、、、マルチカラーパネルとは????](#)

[第3回：今更聞けない、、、抗体のタイトレーションとは????](#)

[第4回：今更聞けない、、、何のマーカーを測定したらよいの????](#)

TDB News 10.2019